

2万5130筆の署名を踏みにじり、「請願」を審議することなく、6校の夜間定時制の募集停止を決定—10月23日の教育委員会定例会を傍聴して

河合美喜夫（夜間定時制の存続を求める連絡会事務局）

10月23日、都庁第2庁舎16階で行われた教育委員会定例会を傍聴しました。議案は一つだけ。「令和8年度東京都立高等学校等の第一学年生徒の募集人員等について」。来年度の都立高校1年生の生徒募集の人数について審議・決定する定例会です。この日のために、私たちは今年1月から署名を集めてきました。その数は実に2万5130筆になりました。その署名を付けた「請願」が審議される（はずの）教育委員会とあって、多くの人が傍聴に詰めかけました。

10時、教育委員会が始まりました。居並ぶ都教委幹部職員の肩越しに教育長、教育委員の姿が見えます。5人の教育委員のうち1人はリモート参加。配付された資料には、小山台、桜町、大山、北豊島工科、蔵前工科、葛飾商業の夜間定時制6校の募集停止と書かれています。でも、これはあくまでも原案です。教育委員がどんな議論をするのか、思わず身を乗り出しました。しかし、定時制の募集停止について報告もなければ、教育委員からの発言もありません。あっという間に教育委員会は終わってしまいました。

傍聴席から「なぜ請願を審議しないのか」と怒りの声が飛びました。「静粛に！」と都教委の役人。静粛にできるわけがありません。私たちが提出した「請願」はどこにいったのか。去年もその前の年も、「請願」の内容と署名数、その請願に対する都教委の回答が教育委員会に報告されていました。

私たちの怒りは収まりません。傍聴者の多くが都庁15階の都立学校教育部に押しかけ、改革推進担当課長に強く抗議しました。「なぜ教育委員会に請願を報告しないのか」「2万5000人を超える人が署名した請願を無視していいのか」…。私たちの1時間以上に及ぶ追及に一時騒然となりました。そのなかで以下のことが明らかになりました。

- ① 改革推進担当課長の判断で請願・署名数を報告に入れなかった。
- ② 「請願」の内容は教育委員に伝えたが、この問題で教育委員会として審議していない。
- ③ 9月5日に教育長と教育委員への手紙を渡してくれるようお願いしたが、その手紙を渡していない。

私たちは生徒募集を決定する10月の教育委員会に向けて、署名を集め、集会を開催してきました。都議会にも陳情を出しました。ありとあらゆるところに出かけ訴えてきました。石川文洋さんら8人の方が緊急アピールを発表し、都庁で記者会見も行いました。

しかし、その教育委員会は「請願」を審議することなく、あっけなく6校の夜間定時制の募集停止・廃校を決定しました。都教委は、募集停止の暴挙に加えて、その決定においてさえきちんと議論しないという暴挙を重ねたのです。私たちは絶対にこの決定を認めることも、許すこともできません。引き続き闘いを続けます。